



Design

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外39号です。表面は体験型研修会と事務職員対象の研修会の報告、裏面は今年1年間の振り返りです。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

体験型研修会の報告



11月22日（金）、「体験型研修会」を開催しました。地域の皆様から5名、院内から22名の参加がありました。胃瘻造設の動画を観て頂いた後、胃瘻のトラブルの対処方法と実際の注入方法について実技を交えて講義させて頂きました。

講義の後は、お茶ゼリー・とろみ茶・ハイカロリーゼリーなどを試食・試飲して頂きました。また、実際に胃瘻の器具にも触れて頂きました。お茶ゼリーの試飲では「意外と美味しいけど水分という感じがしなかった」という感想を頂戴したり、ハイカロリーゼリーの試食では「スイートポテト味が美味しかった」と、好評でした。

普段、食べたり飲んだりする機会がない食品を試食・試飲し、参加された皆様にとって良い経験になったのではないのでしょうか。（地域包括ケア病棟 看護師長 吉崎 浩美）

事務職を対象とした介護技術研修会の報告

～ホスピタリティーの向上のために～

11月7日（木）・28日（木）に事務職を対象とした「介護技術研修会」を実施しました。研修会を主となり企画してくれた医事課大西主任からの報告です。



*

今回、連携診療部会で企画・発案し、リハビリテーション科の協力を得て、車椅子操作について学びました。

理学療法士から車椅子の種類や操作方法などの説明を聞いた後、実際に車椅子への乗車や操作を体験するという流れで進みました。事前に行ったアンケートでは質問はあまり出ていなかったのですが、研修中には現場で日頃から困っていることや新たに気付いたことなど、各職種から理学療法士に対して沢山の質問が出ているのが印象的でした。



研修会のアンケートでは、約9割の職員から「今回の研修を業務に活かせる」との回答が得られ、一人ひとりの気付きや積極的な声かけなどの行動がホスピタリティーの向上につながっていくと強く感じました。（医事課 主任 大西 真紀）

地域医療連携室より

～ Hello Goodbye ～

今年も1年間、地域の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。地域包括ケア病棟“彩り”に関する出来事を以下に列挙します。

*

○ 4月 病棟看護師長が吉崎看護師長となりました。

前任の山本看護師長は退院支援室に移動となり、新たな角度から地域包括ケア病棟“彩り”を支えて頂いています。

○ 4月 山城病院組合としての動きを構築するため、地域医療連携室の職員が老健やましろに週2回程度、出向いています。

以前より地域の皆様からご要望があった、通所リハビリの体験利用を開始しました。

※ソーシャルワーカーのユニフォームを老健やましろと同じにしました。

○ 4月 “老健やましろ”と“地域包括ケア病棟彩り”を学ぶ会を開催しました。

地域の専門職の方々に、当組合について知って頂くきっかけとなりました。

○ 6月 地域の皆様からの入院などに関する問い合わせが40件を超えました。

4月以降、問い合わせは月平均30件を超えています。

○ 7月 木津川市の花火大会の鑑賞会を企画しました（結局、雨のため中止となる）。

来年、再チャレンジします。

○ 9月 問い合わせ窓口一本化の案内（チラシ）を作成しました。

各地町村窓口や地域包括支援センターなどにも配架させて頂いています。

○ 10月 “彩り”主催で秋祭りを実施しました。

患者さんの笑顔に触れることができました。

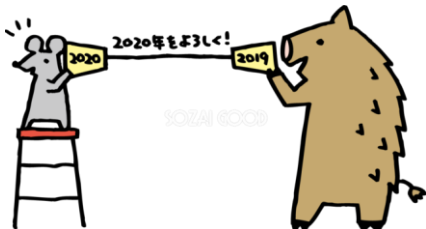
○ 10月 嚥下機能評価目的入院3日間コースを開始しました。

特に、特養入所の方にオススメです。

○ 11月 地域包括ケア病棟“彩り”が中心となり、体験型研修会を実施しました。

お茶ゼリーやエンシュアなど、沢山試飲して頂きました。

*



年間を通じて、昨年を上回る稼働率を維持し、地域からの受け入れの割合も月平均35%を超えました。また、今年は、老健やましろのレクリエーションに“彩り”入院中の患者さんが参加したり、老健やましろの看護師・支援相談員が“彩り”入院中の患者さんを受け入れするために“彩り”看護師と情報交換したりと、山城病院組合としての動きも以前と比較して促進できたのではないかと考えています。

至らない点もありますが、令和2年も引き続き、地域包括ケア病棟“彩り”をよろしくお願ひします。ご意見・ご要望はお気軽にお寄せください。（地域医療連携室 室長 南出 弦）